



# Re:Re:短歌

TANKA

# 短歌

44組 88名による  
返歌をテーマにした短歌集



# Re:Re:短歌

TANKA

44組 88名による  
返歌をテーマにした短歌集



Re:Re:短歌  
TANKA  
44組88名による  
返歌をテーマにした短歌集

*Thank you for reading!*

発行：2018.12.31  
短歌：ご寄稿くださった皆さま  
タイトル原案：嶋田さくらこ  
企画・編集・制作：千原こはき



Re:Re:短歌  
TANKA  
44組88名による  
返歌をテーマにした短歌集

諏訪灯 × 芍薬	のつちえこ × 石井大成
御殿山みなみ × 宮本背水	中村成志 × 月丘ナイル
門脇篤史 × 檀可南子	なな × 泉由良
逢 × 白川ユウコ	杉本なお × 白井健康
岩田あを × 青山みのり	なるなる × たかはしりおこ
甘酢 × 北清水里麗	伊藤成美 × 青空夕景
黒蜜 × 森川晴	のにし × かつらいす
狩峰隆希 × 今村亜衣莉	野中美亨 × おおはしけんじ
有村桔梗 × 春森しゆう	西村曜 × 黒井真砂
知己 凜 × 東風めかり	淡海わか × ともえ夕夏
泳二 × 有希子	ちーぱり × 梅丘つばめ
庵上にれ × ミツル	嶋田さくらこ × 田中ましる
拝田啓佑 × 多田なの	満島せしん × 笹川諒
はんなりまめ子 × 虹香蓮	塩谷風月 × 千原こはぎ
井筒ふみ × みちくさ	松尾友雪 × 蒼月まりか
日向彼方 × 花房香枝	吉羽烏有 × 長月七生
かき永はるか × 嫉妬林檎	近江瞬 × toron*
高木一由 × なぎさらさ	天田銀河 × 海月ただよう
杉谷麻衣 × 秋山生糸	山口綴り × 西藤智
まつねプロジェクト × 平出奔	下谷育正 × 荒井しづ
未補 × 斎藤秀雄	ヤナギハ × 荒地識
町田もちこ × 雨虎俊寛	吉原爽斗 × 高橋光路

※お一人目のアカウント順



「さびしさが雪のように積もったらかまくら作って語り合おうよ」

かまくらに言の葉積もりあたたかく僕たちふたり包まれてゆく

言の葉は胸あたためてしみわたる「また会おうね」はおでんのたまご

好物を最後まで残すタイプですおでんのたまごひとりで解る

欲望がつまった卵割れるとき底に希望が残ってほしい

神様は母なる海に望み撒き波打ち際に希望輝く

神様は世界に希望ちりばめて朝の光のさびしさになる

僕たちは朝の光に導かれ今日もいちにちヒトを演じる

宛先は知らない文字で記されてこれもあなたの見つけた私

贈られた言葉で君が歪むなら手など喉など燃やしてしまおう

大丈夫所詮紅葉だ淀むとき幹の香りに包まっている

幾重にも降り積もる葉に音もなく血潮が染みて卵が弾けて

卵黄が月の幻だとしても胞衣巡る血に育まれ泣け

静脈を樹形図として末端に位置する君がいま隣いた

零れては言葉、電燈、明滅にともる私とあなたのことを

二人称の廢れた国で無秩序な生の極地に溢れた 触れた



宛先は知らない文字で記されてこれもあなたの見つけた私

贈られた言葉で君が歪むなら手など喉など燃やしてしまおう

大丈夫所詮紅葉だ淀むとき幹の香りに包まっている

幾重にも降り積もる葉に音もなく血潮が染みて卵が弾けて

卵黄が月の幻だとしても胞衣巡る血に育まれ泣け

静脈を樹形図として末端に位置する君がいま隣いた

零れては言葉、電燈、明滅にともる私とあなたのことを

二人称の廢れた国で無秩序な生の極地に溢れた 触れた

ヤナギハ × 荒地識  
@yanagihatei @arechisiki

吉原爽斗 × 高橋光路  
@mogumogoods

星歴 20XX年 異星間交友のススメ



壊れてるはずのトランシーバーが音を拾った週末の夜

ひとつしかないスイッチをONにする、ひととき青い星へ向かって

「こんばんは」そっと一言送り出すどこかの誰かに伝わるように

押し当てた耳に響いたはじめての音ひとつずつなんてカラフル

ガ…セイ…Mar…s…アカ…ミニエ…テ…ル 切れ切れに流れる言葉はじまる何か

この地では咲かない花の種を詰めカプセルをほうき星に託す

川べりで拾った石からのびたつる咲かせた薔薇の色は火星似

ここだよのサインに花をひらかせるエンジェルきみに、共会いにゆく

諏訪灯 × 芍薬  
@skjdew @juritanjugini

御殿山みなみ × 宮本背水  
@tookat2 @tanakatanka80

格子フェンスを横から見ればぐるぐるぐる 解けたでせつかあのち糸のわは

まだ解てけぬないち糸のWA放りて捨 踊ります、ほらこんなにも雪

たのしんでるほへらほへらうし 雪の消ゆ ほへらほへらうしたのしんでる

▽【再生ボタン】(ロケットを見る男) ■【一時停止】あ、ながればし

そしていま星のひかりを受けとめて(◆繰りかへし)(★繰りかへし)

ダル・セーニョみたいな景色のなかにある あなたにだけは負けたくなかった

で、なにを描き込みませうと云ふんだらう ほくが白旗を振つてもきみは

After all, tomorrow is another day! 飛んでゆかう落書きだらけの旗を帆にして

## 2LDK

しつやかに角を落として縮みゆく妻の買ひたる塩ビ消しゴム  
重曹にクエン酸にセスキ水 どんな汚れも落とせるように  
リビングの窓を拭きをり遠くまでみとほすことは難しけれど  
こんなにも近くににいるのに触れようとするとはなく夫婦という距離  
寝がへりをうつ音のして、遠いなあとなりのきみがこんなにとほい  
ぬくもりはいらぬ愛もほしくない 横に並んで生活したい  
ほどけゆく日々のまにまに剥いてある林檎の皮のくれなぬを捨て  
明日には忘れてしまうことばかり それでも今日のりんごは甘い

門脇篤史 × 檀可南子  
@508atsu @tankana

## ひとりになるならこのまま



りんご酸かじる少女の唇の吸いよせてくるような紅  
砕けた いまガラスのような口ぶりでりんご酸がその言葉引つ掛ける  
抱き寄せれば砕けてしまいそうで僕は触れられそうにない 紅葉散る  
赤いのがいちまい剥がれて落ちていく我が胎内に巣食ひし紅葉  
はがれおちる君とのこともそのままにしておくしかない 夜にふる雨  
雨とともになだれ落ちてくる思考とは別にあなたを声で縛るのだ  
囁きで縛られている「大切にしてくね」だなんて言うのか君は  
囁きで満たして、こんなスプーンが三日月いろにさみしい夜は

下谷育正 × 荒井しづ  
@under\_valley19 @araishiu

## 結露

おはようと囁りあってもいつもより結露の多い朝をむかえる  
外さむし内あたたかしガラス窓のうち服のうち唇のうち  
ひといきにミネラルウォーター飲み干してきみの名残を希釈していく  
透明なボトルの中に立ったまま地面に残るきみのエビアン  
ゆるやかに絡んだままの脚 あのね今日は布団を干すから起きて  
冬の陽にさらしておりぬ掛け布団いまは冷たき昨夜の汗を  
永遠をまだもらえないゆびさきに水道水がひどく冷たい  
先刻のきみとのキスは流れゆく白き陶器の洗面台へ

逢 × 白川ユウコ  
@ai\_tanka @shirakawanomiku





## 愛以外のなものでも

すき家ってきみが言うからマフラーで顔を隠したある冬のこと  
すきだって聞いた時から式場を探さなくちゃとゼクシイを読む  
ツーショット ゼロ枚だから2次会で流す写真を選べないじゃん  
シングルを2人で分けて使いたいコスバが良いとバカにされても  
向き合った2人の歯ブラシ見習ってキスをしようよ、なんていええない  
キスの距離よりも近くにいたいから体が邪魔でじれっなくなる  
ていねいに君を愛すよ、大好きと好きの違いも解らないまま  
かっこいいよりも可愛いが合ってる怒られたってだって愛でしょ

森川晴 × 黒蜜  
@haruto\_papurika @bhoney98

## 紅の華

存在の器にひらく一輪の花をちぎれば星の落涙  
卓上にちぎり置かれた紅の華瑞けき過ぎてても艶点すその影  
ちぎりける夜のくれなゐ 東雲のひかりのうちに艶の褪せゆく  
冬に伏す紅の面の愛しさに先の季節の袖引き寄せん  
白雪に落ちたる紅のまばゆさを終に幕引け愛しきその御手  
旅の先触れるひかりに目覚むれば紅顔の夢御手に抱かれて  
花は消ぬたしかに咲みしひとものゆゑに愛さむつつし世の夢  
ひととも水面に流れ変わりける変わらぬ那辺の珠こそ愛でけれ

寺羽鳥有 × 長月七生  
@summatu @maria\_jouhands

## 住み処

羽毛布団のために死ぬ鳥 冬の雲がわたしの部屋を暗くしてゆく  
クイックルワイパーをかける四畳半のどこかで回収していた羽根  
北の鳥、西の鳥とが交尾して北西の鳥の誕生あわれ  
あわれみはいらぬボクは人よりもこんこんと湧く水場を知ってる  
へアイロンにくちばしのごときとところあり手なずけるととき君の手に開す  
本綴るゆるびのささくれ うまれゆくたまごのやうな熱を孕んで  
濡れそぼつ窓のさびしさ抱えつつ飛行機飼えり何羽も飼えり  
目の前で飛び立った鳥もう土地を宿に生きてはくれぬだろうか

狩峰隆希 × 今村亜衣莉  
@camline99 @ima\_mura\_3

## カウンターに通されて



「とりあえずビール」みたいな要領で伝えてみたいことはあるけど  
品書きを見やるあなたの横向きの顔を見つめてしまおうわたしだ  
左右から身をほぐされて君側のほっけの骨は美しくある  
梅水晶、卵の花、おくら、分かちにくいものをあなたと分けようとして  
レモンサワーのレモン絞れば種こぼれ本音のひとつが君に弾ける  
えいえんがわりと近くにあるようで酔っているの触れてみようか  
終わるものと始まるものが行き交ってそろそろ言っべきなのか、かんじよう  
横からの顔を晒した満月をきれいですね、とどちらともなく

近江瞬 × toron\*  
@sun0690 @toron0503

## distance

ココアって苦手なんだよマグカップの底に呪文のように残って  
やめとけばよかったグレーのセーターは不機嫌を隠してくれなくて  
雪の白、茶色の帽子、拗ねているあなたを少しずつ溶かすゆび  
玄米茶やさしく淹れてあなたから本音が滲み出るのを待って  
ああ、今だ。あなたの顔の色がずっと薄くなってきれいな怒り  
坂道を同じリズムでくだりつつ糸口が見えない夕まぐれ  
のぼり来る人らとくだり行く僕ら のぼる人らに射す陽のひかり  
室外機やさしく唸るペランダで会えない冬を見下ろしている

塩谷風月 × 千原こはぎ  
@sfujetsu @kohagi\_tw

## Lilium

あなたから手紙が届く雪の朝わづかに花の匂ひをさせて  
なつかしいあなたの文字をたどっている六花のようにはかない指先  
何事もなかつたやうに綴られるあをいインクの文字のあかるさ  
足あとを探すみたいにコールするあなたの声の冬の木漏れ日  
どうしてもいつも笑つてしまふからあなたのご糸に油断できない  
笑い声足りなくなって飛び乗った電車はやけにゆっくりとまる  
玄関で嘘みたいつて二度言つたわたしのご糸がもう一度言ふ  
体温は嘘をつかない抱きしめたあなたの髪の百合の香り

有村桔梗 × 春森しゆう  
@chattnoire\_k @junju\_usako

## 邂逅

青月を待つも融雪咲きがたし毬が遙かな冬の凍音よ  
玉風の尾びれを撫でた朧月結びし縁の始まり薫る  
極月の縁薫れば賜物や風のはひれも袖の白百合  
ただ今は萌ゆる実りが去らぬようたゆたう糸を結う刹那かな  
淡い輪は燃ゆる御影が瞬くも文を連ねる糸シトシトと  
連なりし言の葉の音小夜時雨輪も固まりて成る御影石  
琴の音葉も響くなり高空の樺の紅とゆく道の声  
穹窿の思色なる管弦が心地良いのは二葉だから

松尾友雪 × 蒼月まりか  
@snowsorcery @souduki\_marika



Re:Re: 短歌  
44 短歌集  
44 短歌集

えっ？肉じゃがの肉ってうちは挽き肉だったよ！



君がいた証拠ばかりがある部屋で一人前の肉じゃがを煮る  
目覚めると辺りはやけに静寂で痺れていない腕を見つめる  
冷えるねとひとりごちて探ってるもうないはずの絡めていた足  
戯れに投げつけられたタイツにも単位があった。デニールと知る  
会っている時間を一気にフープして息吹き返す「NEのやりとり  
誰よりも先にいいねが出来るのに我慢している」神速のふまば  
触れあえる近さにいないときにこそ感じてしまっ愛の深さを  
ひっそりと汐路に浮かぶ三日月にあなたの長い睫毛をおもっ

知己凛 × 東風めかり  
@Chikarin7 @mekari1573

## 冬を葬る

さざんかは息がこぼれるように咲きみの知らない匂いをさせて  
その声はあなたでしたか ふるふるとさよなら三叉路には冬の風  
降りつもる雪をくださいあたたかな記憶の指に溶けなくらい  
死を望むような微笑みひとつして「またね」って言う もう一度微笑む  
流星の夜の長さよもう夢に出てきてほしい人もいないし  
朝焼けを待てば凍てつく愛しさをそれでも信じようとしていた  
少しずつ聞こえなくなる冬の虹を見つけてわたしを呼ぶぎみの声  
落ちている花の名前を問うことの鳥葬めいて冬道をゆく

嶋田サクラ × 田中井しろ  
@sakurako304 @tnkmsr

しずく

ペランダに咲くパンジーの色に似たあなたに贈る初めての歌  
手を止めて日溜まりのなか贈られた言葉のうちにあなたを探す  
カーテンの隙間が鈍く光る今朝あなたのことを知らないでいる  
消えそうな昼間の月を見ているコンピ二前の横断歩道で  
いつもより少しゆっくり水をやる一つだけ咲いているパンジー  
爪先にしずく一粒染みてゆく弾くことなく砂地のように  
ほんとはあなたに伝えたいことがあった気がする 靴下を干す  
春待たず咲き終わるのを知っていて届いた歌を繰り返し読む

泳二 × 有希子  
@EJshimada @yhope124

## あるいは、詩

潮騒は喝采である。あなたへの、またはあなたの汚れた指への。  
指ひとつ海へ浸せば先触れのようにカモメの、たぶん歌声  
歌は波、揺れて震えて届くまで止まない。届いて弾け飛ぶまで。  
ほしのままに水を抱えて会いにゆくここはわたしの(たれかの)道途  
ありがとう、あたたかな水(または雪)。温度はあなたの覚悟と思う。  
生きるのがどうも拙い僕たちのとびきりの千里眼、あるいは詩  
飛べるよ。あなたは飛べる。風はいまシナプスの速さを超えて、来る。  
借り物のようにあなたが光る日にさざめきながら初稿を終える

満島せしん × 笹川諒  
@seshimitsushima @ryusasa\_river

## 親知らず子知らず



お祝いを告げられた日の帰り道スキップわたしママになるんだ  
とぶなとぶな今のこの揺れそのままに悪阻の波でまどめて返す  
ロールパンで命をつなぐパンのある時代の妊婦でよかったマジで  
ロールパン悪くないよなロールパン食う妊婦の子でよかったマジで  
ドラマって嘘ばかりだ胎動の痛みに体をくの字に折って  
たむむれに母の悪態聞きたくてこれから All night Dancin'!  
まだ出たくないのかおまえでもコメンわたしは早く抱いてやりたい  
独立のカウントダウンが急ぎ立てるいや俺はまだ未熟者です

淡海わか × ともえ夕夏  
@omiwaka\_ @crissant\_hegz

## Resoluto

ぼらぼらと肺をひらけば淡雪の吹きだまり どんなにか祈って  
眼底に咲くアネモネは懊悩を糧とする。ほら、いま爆ぜたでしょう？  
そこだけを知ってる歌のそこだけを繰り返すよう向かう 西日へ  
旋律に乗せるステップ 廻れ回れ螺旋の果てに出会わぬように  
街なかのすべての音素 シヤイナセウソク ゴヨノ 僕らの影はどこから  
暗やみの奥はあたたかく微睡みを裂く波長はまだ見つけれられない  
ことほぎのほぎ、のあたりにつまづいて御祝儀袋 春 つかれたよ  
繭玉に仕舞っておいた混濁の羽化が始まる 幸いになわれ

庵上にれ × ミツル  
@elmchan @egg\_egg\_egg86

## 「これが夢だと気がつく前に

久しぶり元気ですかと言うこともおこがましくてすこし手を振る  
あ、これは夢って気づくあの人のかたちをしてる何かが笑う  
フィクションのまままでいさせて「ごめんね」のかたちのくちで朽ち果てる音  
「愛してる」だけ聞こえないきみの声ノンフィクションでお送りします  
さようなら伝わらないでこんな愛へつのかなにかに変わったらしい  
愛があるみたいな君の温もりが左手にまだ残ったままで  
加害者にしてほしかった閉じこめてしあわせとは盲目のえいえん  
しあわせなあの人があるもうずっとずっと終わらぬ夢を見ている

ちーばり × 梅丘つばめ  
@Re1\_0ga @tsubakurame.729

## 春巻き

結婚は気が早いかな春巻に話しかけても応答はない  
目を閉じてきみの料理を聴いている世界に音があってよかった  
辛い料理の食レポを見て辛くなるなんてめでたい生き物だよ  
楽しいね 二人でいれば視覚から始まる喜びなのかな日々は  
まばたきの音で起こして ケチャップの瓶も一人じゃ開けられないし  
ここにいる全員集まってもふたり 平気 人数分の困難  
ねえリモコンこっちに投げて リモコンとっしょにきみも来るとなおい  
テレビから離れてきみに近づいてテレビをつける いい朝になる

拜田啓佑 × 多田なの  
@haidaksk @ohta\_nano

えいえん ちみ はっかりよつらん  
詠縁の文・八歌繚乱

澄んだ夜にキラリ浮かんだ言葉たち拾い集めて「送信」を押す  
住んだ都市生まれも育ちも紫の言の葉たちははんなりほっこり  
師走の隙間二つの歌がはんなりと響きあいて縁えにしを結ぶ  
千の手と眼の観音に結ばれたウチらの「今年の漢字」は「縁」で♡  
災いを飛ばすうちらの歌パワー次の年はハッピー全開！  
言の葉の一語一笑で花咲かす四刀流の「福業」解禁  
雪の花ふわりと止んで薄紅の咲く頃話に花咲かせたい  
花は咲く詠い語らう時紡ぎ桃栗三年ウチら何年

はんなりまめ子 × 虹香蓮  
@hannarimameko @Niji\_Karen

風に吹かれる代数たちは

日直は男女のペアで日誌には僕たちの名が並ぶことなく  
友人の顔して笑う友人と袖のチョークの日向の匂い  
黒板を白く汚していくような思慕、数IIの範囲教えて  
Xズズをすこし潰して書く音が吹き溜まりゆく教室の隅  
教室の外は放課後すきだっって言えたら後のことは知らない  
忽然と【にんげん】として現れた呆れるほどに清しい顔だ  
かの春の自己紹介の顔をして告げたことない言葉を告げる  
とりあえず隣を歩く 風紋がうつろうように知り合いなおす

西村曜 × 黒井真砂  
@nsmakira @higuraya

空の音

街中にクリスマス音溢れでて衰しいことがほんのひとさじ  
とりどりの光あふれるショーウィンドウあなたに贈る絵本を買った  
冬の日はいさなページ初雪が片手にとけて君を待ってる  
息でくもるガラスぬぐえば一筋の夜空に滲むあなたの星が  
手のひらで星のかけらを集めてるつめたく光る愛というもの  
目に見えぬものを信じていられた日 流星群は雨で見えない  
せなかごし雨ふる空の音を聴く波のようだよ砂のようだよ  
空という器の中で生れる音ともに聴きたいあからひく朝

井筒ふみ × みちくさ  
@hutarimusume @michikusa\_31



## 給湯室の歩き方

夕暮れの給湯室は黄金に溶ける適度な熱さと優しさ  
溶けてゆくハチミツ色のたましいは小さいほうの鞆に入れた  
鞆には入らないから抱くように冬の街では見慣れた光景  
スキップの下手なおとなが好きだった今日はあなたがいる冬の街  
隣にはあなたの上下するつむじ正しい歩き方を忘れる  
何度でも忘れていいよ真っ白なコップを満たすときの嬉しさ  
透明なコップの向こうは早い朝身体は未だまどろみの中  
逆再生みたいに思い出す朝の給湯室のひみつの話

のにし × かつらいす  
@no\_nishi @v\_vritiu

## やさしさになんて名前をつけようか

うとうとと眠った夢の中でまた涙のわけを考えていた  
また夢を見るためだけに二度寝した夢の中でも無口なんだね  
目が合っただけでバレちゃう感情をせめて無口で隠したりする  
少しだけ切った前髪いちばんに気づいてほしいなんて嘘だよ  
僕だけが知ってるんだね整えた毛先とすこし切った前髪  
わざとだよって誤魔化して目が合った時ほどきみに嘘ついている  
君がすぐ誤魔化しちゃうから忘れてた涙のわけを教えてください？  
泣いたのはこの感情を定義する言葉の中にきみがいたから

日向彼方 × 花房香枝  
@hujuga\_kanata @hanabusakae

## シヨコラの雨

くちづけは今日もシヨコラの味がして甘い香りでわたしを包む  
また君を包み損ねる乱雑にチロルの包み紙を剥がせば  
ひとつつつ剥いでください不器用にささくれ立ったあなたの指で  
指先の皮が捲れて血が滲む今夜は君を待つような雨  
やわらかな夜更けの雨にくるまれば鼓膜ふるわすあなたの吐息  
くるまった毛布に染みた体温がとて甘くて少し痛くて  
唇でああなたの鎖骨なぞりつつ降り続く雨にまどろんでいる  
人知れず君に最後のくちづけをシヨコラの雨が止まないうちに

野中美亨 × おおはしけんじ  
@nonaka\_miyuki @gc0084z7

## 枯木星は瞬く

暗かりに忘れた古い蜂蜜と捨て猫の瞳に震えて眠れ  
猫の瞳は雷雨の先へ向けられたどこにも行けない少年残し  
すし詰めの電車で運ばれてく神話になれなかった元少年よ  
詰め将棋解いてゆく指の隙間から溢れる星を集める係  
永久か半永久か分からなくなる程に枯木星は瞬く  
目覚めれば彼は誰時が永久と称して幼い我連れてくる  
「戻りたい」目覚めた先の夕焼けにころり転がる安い口紅  
テーブルに安い惣菜並べればひとり生きていける気がする

かき永はるか × 嫉妬林檎  
@like\_tanka @shitto\_ringo



## 遠くの街で降る雪に



## mission IMPOSSIBLE

ウィジェットが教えてくれる初雪がきみの街にも降っていること  
吐く息の白さにきみの名を溶かすくちつけるようさえするよう  
街中が真白に染まり左手のスマホのきみのことばあたたか  
言葉なら白の魔法にかけられて遠くのきみを抱きしめに行く  
結露した窓辺に映る微笑んだ写真のきみをそっと拭って  
泣いてない滲んでるのはきみの住む街とおんなじ天気のせいだ  
明日には雪は止むからあと少しあと少しだけ空を見ようよ  
寒がりなきみに会いたい明日には気温が上がると伝えるために

幾つもの明日を奪った罰だろう次はあなたを殺せだなんて  
足元が濁流となる感覚だおまえがおれに刃を向ける  
凶器なら私の心 おだやかな大地にふかく刃を突き立てよ  
白すぎる 喉元を向く刃より表情のないおまえの頬は  
愛された夜の終わりを鮮やかに迸る血は昴の花弁  
ゆくなゆくな手のあいだから零れゆく愛おしい朱おまえの朱が  
止めるはずだったあなたの心音に最期の時を満たされている  
縋りつくような最後の口づけですべての罪と罰を引き取る

高木一由 ✕ なぎささらさ  
@ka\_to\_ka\_zu @spice16g

杉谷麻衣 ✕ 秋山生糸  
@kazanagistreet @kiito25

## キラキラ



## 熱が出たので

それでももう泣かなくてよいと安堵する婚姻届にサインをしたら  
おかしいね婚姻届一枚で変化が起こる世界だなんて  
愛されていると世界に知らしめる今日だけわたし主役になるの  
はなやそら今日という日に見たぜんぶこころもぜんぶ覚えていたい  
いまわたししあわせだからすこしだけこころのくろいものみないふり  
左手をひらひらさせるたびすこし重い指輪をとくべつと思っ  
乱反射してる左手眺めてるずっとわたしの光でいてね  
手を繋ぎ見上げる光きみの目にうつる未来もきれいだろうか

朝起きて体温計を脇に当てながら寝転ぶ大の字になる  
目がさめて窓から見える冬模様くの字のままに猫になりたい  
猫ならば許されるだろうタキャンも気ままな人では通らぬ世界  
君からの通知こずとも手を伸ばし足を伸ばしてぬくぬくと出る  
少しだけ期待してるの冷えピタとポカリと看病ベタがいいよね  
温かな昨日の君を思い出し「大丈夫だよ」とメールを送る  
呼び鈴は鳴るわけないねいつもより毛布を多くかけ君のよう  
今すぐ君のもとへと駆け出してジングルベルが鳴り響く夢

なるなる ✕ たかはしりおこ  
@nanunaru0825 @nashkrkr

伊藤成美 ✕ 青空夕景  
@nlm\_j @xingbake00

## 夏のみどりを愛でる

万緑のゆめをのぞんで落ちてゆくやさしい夏は思い出のなか  
淡い初夏まどろむ日々の底で見た覗けば透けるみどりの鏡  
あの夏の青を目指した緑たちここにいたのね。抱きしめていい？  
ぎゅっとしてくれたら胸の小石を青空に還すように泣くかな、嬉しい  
あたたかな涙をすくい育んだみどりは熱にとけることなく  
夏到来、背すじを伸ばすみどりの葉 青空という光の海へ  
花ばかり愛されているこんなにも夏の緑はつつくしいのに  
花も緑も空、見上げれば平等にひかり降りそれを愛と呼ぶんだ

なな × 泉由良  
@nanoi257 @juraco

## 続編

ペアガラスいまさら割れて終わりってのはじまるみたいな音がするよね  
使わないタオルをすこし捨てはじめようやくひとりで生きられそうだし  
あわせ、とつぶやいてみる唇が触れることなくしあわせになる  
バカ安い赤いワインの減らなさがひとりの時間のはやさなんだな  
寂寥はこういう音がこなゆきが窓の向こうで死に続けている  
このジーってのなにかな？と呟いて風呂場で返って ああ、これなのか。  
終わらない終わりもあつて続編はだいたいいつもつまらないのに  
カーテンが揺れるみたいに相槌をうってしまつて閉じられた幕

きつねごプロジェクト × 平出奔  
@kitsunekoprij2 @Hirade\_Hon

## アドニスへの指入

本のやうにひらくあなたの胸元にあかむらさきのアネモネが咲く  
胸元にアオスジアゲハは止まれないギリシヤの風がもう吹いている  
遙かなる時の記憶に熟れながらひとふさの実のひしめく葡萄  
熟れすぎた七十年の遙かなるヤマトの端くれ新たな房は  
一匹のほそき蚯蚓がかき混ぜるこをろこをろと真冬の海を  
太刀魚の銀より長い冬は過ぎ手のひらから零れ落ちる種子  
さうですかもう春ですか眠せうな種子をさらさらのしづくが濡らす  
初春の海を出でゆく定型詩茜さすきみのほそき指へと

杉本なお × 白井健康  
@nao\_keel @muraginono





死んでも夢を見るかなもしかしてこれも夢かなすごくこわいな  
 夢なんてたかがげんじつ死後なんてたかがげんじつ生だけが夢  
 およぐって悪夢みたいねさかなくてわたしのまぶた食べにくるかな  
 かさぶたのままたきに似たぶたをみたきみのまぶたがさかなを食べる  
 まばたきをするたび死んでゆく羊ねむれないのは夜のせいかな  
 目覚めれば死ぬぼくたちは生きるとき羊の夢にねむりはじめる  
 アコーディオンきこえてくるのはじめてはいつもまっくらねむたいのかな  
 はばたく耳の風におんがくはかき消され手はここにいたいじょうぶ おやすみ

未補 × 斎藤 秀雄  
 @mho\_utajomi @hideopa

「はい、どうぞ」渡されたのは大きめのポケットからの使いかけカイロ  
 白い手と一緒にカイロはポケットに戻ってきたよ これってどういう  
 白い手は小鳩の鼓動だけですか眩しく触れる これってどういう  
 ポケットの中からきつと白鳩や万国旗とか出てくるやつだ  
 手品師は助けた狐に撫でられる 揺りかごこんご 背中に積もる  
 揺りかごのキツネは思う一輪の自分の薔薇を見つけたことを  
 バラ色の足をふくんだスニーカー口づけまでのショートスロープ  
 スニーカーのかかどがあがる 鳴りわたる季節外れのスターターピストル

町田もちこ × 兩虎 俊寛  
 @Mucuze @amefurashi3107

## 雪の予報は

その街に雪の予報があるという 遠くへゆくなら声をかけてね  
 降り募る前に報せをあ、そうだでっかい傘を買ったんですよ  
 肩ふたつ濡れずあること言いだしてその伸びやかな声に温もり  
 温さとは持ち寄るものと知る雨のなんかずっと笑ってません？  
 そうねずっとくすぐったくてホットケーキ分かち合っただけ日曜は照る  
 残りぜんぶ食べなっていう明るさにぜんぶ攫ってゆきたいですよ  
 どのか行こう、近くがいっか 幼な声らんまん公園に全力鬼ごっこしようよ  
 あなたとなら距離は やがてこの街にも花が降ること すべては追いつきたさだ

のつちえこ × 石井 大成  
 @notsuchi @shidai\_uta

## カノン

てぶくろを左と右に分け合おう離せない手は離さないまま  
 不自由と自由で編んだこの恋が終わらぬように手が離せない  
 解き放つただそれだけのために持つ鈍の鈍さのような手のひら  
 ゆくならば二人でゆこうその先が何もない場所だったとしても  
 豎琴の代わりに鳴らすあばら骨ここにいますと迷わないでと  
 靴音が奏で続けるアルペジオ聴きながらゆく冬の公園  
 踏みしめてゆけば月へも触れられるあなたが風に刻む階段  
 吹き込んだ風にはためくマフラーがきみの隣でつばさに変わる

中村 成志 × 月丘 ナイル  
 @nakam8 @njie\_222